

みどりひと



みどりの新聞 平成18年1月20日 発行 No.133

妙正寺公園の噴水



園内にはサクラ、イチョウ、ヤナギ、カヤ、エゴノキ、クロマツ、カラマツ、シラカシ、メタセコイア、サザンカ、シイノキ、サイカチなどが植えられています。

落合橋から妙正寺公園に入るとケヤキの大木があり、その他、多種の樹木がみどりの木陰を提供しています。広場の砂場や遊具には子供連れの人々の姿が多く見られ、池(約600㎡)には噴水や中島が浮かび、カモやアヒルが群れ、四季の景色に変化を与えています。

妙正寺川を下流から上流へ探索してみよう。中野区内の全長570メートルのジョギングコース、その終点の井草下橋から妙正寺川は杉並区に入り、下井草、本天沼、妙正寺公園のある清水までが流域です。日向橋、落合橋には常緑樹のほか、多数のシダレザクラがシーズンには見事なアーチを見せてくれます。歩道は道幅も広く、足を止め、椅子に座って休める空間もあります。

妙正寺川は、水源を妙正寺の妙正寺池にもち、下流に向かうと新宿区下落合で神田川に合流します。水源の妙正寺池は、かつて中瀬天租神社の湧水をたたえていましたが、現在は上流域の井草川を受け、妙正寺川に注ぎ込んでいます。

川沿いの風景



其三 妙正寺川
井草川流域を歩く

MAP



つづいて、妙正寺池に合流する井草川に入ります。

井草川は、周辺地域の住宅化により農業用水の使命を終え、昭和30年代に全面が暗渠化されました。現在は地域の要望に応え、井草川遊歩道となり、今年には妙正寺川から井草川の一部にかけて、“科学と自然の散歩道”として整備されました。遊歩道には、地区の人々に愛される空間として管理される季節の花壇、かつて川端に生えていた樹木の一部や、沿道の三谷、道灌橋、四宮森、柿木北などの公園など、種々のみどりが至る所に見られ、散策に適したコースになっています。また、かつての井草川の水源地は、切通し公園周辺の湧水に、旧上石神井村出店から農業用水として千川上水を導入したものだ、とのこと。



科学と自然の散歩道

善福寺川さくらの会

都立善福寺川緑地内で月2回（第二日曜日、第四土曜日）の定例活動を行っています。

活動内容は、四季の花を楽しめる花壇づくり、腐葉土づくり、樹木の観察、樹名板取付け、サクラの保護と育成などです。会員は現在15名です。会員の自由な発想で活動を広げています。平成17年春にはサクラの苗木33本を植樹しました。秋の環境博覧会すぎなみ2005では40種の樹木の実を展示しました。ここをマイ公園と考えて親しみの在る公園づくりに参加してみませんか。



特集!

みどりのボランティア 杉並

今号ではみどりに関わる“ひと”に注目して、みどりのボランティア杉並の活動紹介、最近の活動などを特集で紹介します。

みどりのボランティア杉並とは...?

杉並区のボランティア登録制度で、現在約130名の方々*が登録され、杉並区内でみどりに関わるボランティア活動をされています。

*区内在住・在学・在勤者

私樹木もまもる会

区内の某宅にてボランティア3名で、シイ、モクセイ、春一番美しい花とカワイイ実・強い刺をもつカラタチを、アオギリ、シュロ、タケなどにかえる手伝いをしました。

都立善福寺公園にて「善福寺自然愛護会」の活動に参加し、「屋敷森」主から材料提供、公園事務所のタケ切り出しのご協力を得て、エノキ根元に、ゴマダラチョウの幼虫の越冬を守る落ち葉だめ作りを手伝いました。材料の迅速な調達は、民有地（屋敷森）だからこそではないかと思えます。また、このような活動の時に限らず、日頃から地域で「屋敷森」管理の協力ができれば良いと思えます。

今後やっていきたいこと

- ・保護樹木制度に準じた「サンキューツリー・プレート」を付け、地域の方々・ファンの人で「その木」を愛してゆきます
- ・更地化税制（相続税）による貴重な緑の減少について考えます
- ・都市計画についての勉強をする

お問合せ：井口 ☎090 - 6033 - 3313

(仮称)子どもと大人と自然遊び村

今、遊び村では、次のことを行っています。

- ・春のみどりのイベントで「自然素材からチェッカーゲームを作って遊ぼう」
- ・秋の環境博覧会で、チェッカーと「おなみダーツ」
- ・自分たちの活動や他団体の活動を広く知らせる

今後、次のこともメニューにくわえられたらいいなと思っています。

- ・「くわがたの里」
- ・「おなみ調査隊」

興味を持った方は、各イベントにご参加下さい。遊び村のメンバーに加わってもらえればさらに有難いです。

お問合せ：小川 ☎03 - 3393 - 7341、(土)～(火)



自然観察の会

多摩森林科学園下見会と研修会
12月7日、区民約40名が参加しました多摩森林科学園の自然観察会。下見と研修会を11月24日に行いました。皆さん楽しい解説ができるように張りきっています。

10月15、16日環境博覧会すぎなみ2005
みどりのクイズに大勢の参加があり、みどりの基金にもたくさんのご寄付がありました。

◀環境博覧会すぎなみ2005に参加し、杉並区の鳥になったらいいなと思う鳥に投票してもらいました。

「あなたが選んだ杉並の鳥」

1位	カワセミ	109票
2位	メジロ	57票
3位	カルガモ	53票
4位	コサギ	45票
5位	シジュウカラ	28票
6位	ツバメ	22票
7位	ハクセキレイ	21票
	ヒヨドリ	21票
9位	カイツブリ	12票
	スズメ	12票
11位	キジバト	10票
12位	オナガガモ	7票

引き続き次号も
ボランティア特集です。

緑の歳時記

アカマツ<赤松>マツ科 別名メマツ

分布 北海道(西南部)、本州、四国、九州、朝鮮半島、中国東北部

山野に広く自生していますが、植林も多く行われています。幹は直立するか、やや曲がり、高さ30～35メートルにもなります。樹皮は赤褐色で、幹の下部は暗赤色となります。若木の樹皮は浅く、老木になると厚く亀甲状に裂けます。

葉は2個ずつつき、長さ7～12センチの針状でやわらかく、さわっても痛くありません。4月頃、雄花は若枝の下部に多数付き、雌花は若枝の先端に2～3個つきます。種子には翼があり、風によく飛びやすい型になっています。マツカサは湿っているとつぼみ、乾燥すると開きます。

庭木、防風、防砂樹、盆栽、建築、楽器材、パルプ等、多くの用途があります。また、松脂(まつやに)からはテレピン油やワニスを作ります。

マツは古来より常緑で美しいことから神の宿る木として様々な民俗行事や祝い事に使われてきました。門松もそのひとつです。各地に伝わるマツの習俗や伝説などが多くあるのも私たちの身近にマツがあったからではないでしょうか。マツは木偏(へん)に公と書きます。明るいところが好きで堂々としてうる暗いところがないことを意味します。名は体を現すようです。

和名の由来

1. 久しく齢を保つところから「たもつ」が転じて
2. 行末を待つ意から
3. 万年の齢をもち常磐(ときわ)色を保つところから
4. 神を待つ意



杉並でよく見る松

浴風園の歴史とみどり

杉並も都市化と開発ともなっており、みどりの減少が進むなか、区南西部には美しい地域のみどりが見られます。なかでも高井戸西にある社会福祉法人浴風園の敷地には、今は得がたい豊かな自然があり、地域に親しまれるみどりの拠点として理想のモデルです。

80周年を迎えた浴風園の原点は、関東大震災で被災をされた高齢者の方々のための施設でした。そのときに植えられた樹木も大きく育ち、この園を訪れると、誰もがこの木々から発散される癒しを受けることができるのではないのでしょうか。

今回は種々の歴史を経た各緑ゾーンをご紹介します。

みどり探訪

杉並のみどりとそれに関わるの方々をご紹介します。



開園当時のようす(大正14年)

園芸ワンポイント

このコーナーで毎回アドバイスを頂いている、「みどりの相談所」(塚山公園)の相談員のお二人に、相談所のお仕事についてうかがいました。

福本 伊之助
先生

「毎回、どなたからどんな相談があるか、幅広く不特定多数の方々からですので、いつも新鮮な気持ちで臨んでおります。相談の内容では、庭木に関するものが多く、庭木一本の選び方から、移植時期、剪定、肥料、病虫害、暑さ寒さの対策などですが、ときには、隣家の竹や木の枝などの苦情処理についても、植物の性質に応じた対応をアドバイスすることもあります。

植物の名前を調べて特定することを“同定”(どうてい)というのですが、殆どの図鑑に載っていないような外来植物の名前を尋ねられる方があり、しかもその採取場所・日時を教えないと判定は難しいです。最近の事例ですが、依頼を受けた植物が、シンセパルム属のミラクルフルーツという判定に至るまでには、保留させて頂いた上調べましたが、植物はおおよそ35万種もあるので、まさに謎解きでしたね。

相談業務の中で一番嬉しいことは、良い結果が出たときに『有り難う。うまくいきました。』と、感謝の言葉を頂いたときです。また、たとえ結果が悪くても、研究の資料とし改めたいと思いますので、お知らせいただければ、有り難いと思います。」



澤地 家治
先生

「最近では樹木の相談が多いです。定年を過ぎて、『庭木の剪定をしよう』と考えられる方が多いらしく、全くの初心者の方が樹木の剪定について相談に来たりしますね。でも、一番大事なのは、剪定の技術より、安全管理。はしごに登って作業をしていたら、はしごと倒れてしまった、などの事故もあるので、まず、枝にはしごをくりつけ



るような安全管理をした上で剪定に臨んでほしいです。植物の病気も人間の病気と一緒に、病気の人を病院に連れて行かずに診断することはなかなか難しいです。直接病気になった枝などを持ってきて頂けると一番的確なアドバイスにつながります。クチナシにはオオスカシバの幼虫しかつかないように、簡単に害虫や病気を判断できる植物もありますが、多くの植物がその種類によってさまざまな病気にかかったり虫がついたりするので、病気にかかった枝1本を持ってくるだけでもすごく助かります。

でも、ヒントが少なくても、相談に来られる方といろいろな話をしながら互いに納得のいく答えを探していく道程も園芸相談の醍醐味です。いろいろな話題に触れながら答えを探していくのはとても楽しいですね。」

緑に関する専門相談は
塚山公園みどりの相談所
くさばな
☎3302-9387
(毎週土・日曜日)



接道部緑化助成制度について

公園緑地課みどりの事業係
内線 3596

杉並区では、みどりの豊かさが実感できるまちを実現する新たな緑化運動「みどりのベルトづくり」を推進していくことになりました。

その中で、身近なみどりとして、生け垣や庭先のみどり、近くの公園や学校などのみどりを結んで、小さな連続したベルトを造っていきます。

身近なみどりの景観形成に取り組むためには、接道部の生け垣や庭先のみどりを丹念に増やし育てていくことが求められています。

区は、美しいみどりの映える街・住む人に優しい街・災害に強い街に向けて、環境づくりの一環として、道に面した部分の生け垣化等に対して助成を行っています。

*この制度は、既存塀の撤去と生け垣等を造る費用の一部(右記参照)を助成するものです。

今回は、屋上緑化をご案内します。

接道部緑化助成制度

助成条件は、道路(幅員4m以上)に面した敷地(個人所有のもの)に長さ2m以上の緑化(種類:生け垣、植樹帯、フェンス緑化)をする場合です。

助成対象内容は、樹木費、植え付け費など直接緑化に要する費用が対象となります。

既存塀等の撤去費用は、緑化部分の塀を撤去する費用に限ります。

同一接道での生け垣、フェンス、植樹帯の重複助成はできません。

新規の助成単価は、生け垣9,000円/m、植樹帯5,000円/m²、フェンス緑化2,000円/mです。

改修する場合の助成金額は、新設の1/2です。

交付額は、実際の工事費用が基準最高額未済の場合は、実費を交付します。

助成の1件当たりの限度額は50万円です。

<編集後記> 「みどりとひと」は「みどりのボランティア杉並」と協働で編集をしています。

- ◆ 初冬の公園を散策しながら思いました。春の緑、夏の木陰、秋の紅葉と役目を終えた枯葉は、やがて雨雪に混じり、土となり、春の新緑の活力となるのだなと。(青)
- ◆ 平成18年も本紙に前年以上「みどりの」関係ボランティアグループの活動が記載できることを祈念します。(芦)
- ◆ 浴風園の環境と歴史を大切に施設運営を学びの場にしたい。(井)
- ◆ 植物に限らず、どんどん新しいものが海外からも入って来ます。常に勉強心を持たねば、と感じます。(中)
- ◆ 冬でも楽しく観察できるのは、木の葉痕(ようこん)です。アジサイは冠をかぶった女王様、オニグルミはヒツジの顔。散歩の折にでも探してみてください。(山)

みどりの新聞 133号 平成18年1月20日発行

【編集】みどりのボランティア杉並
【編集・発行】杉並区都市整備部公園緑地課 〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎03-3312-2111
「みどりとひと」は区ホームページでもご覧いただけます。http://www.city.suginami.tokyo.jp/



この印刷物は、大豆油インクを使用しています。また、古紙配合率100%再生紙を使用しています。